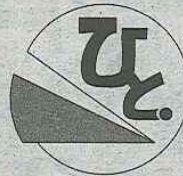


着任してから毎日英語で話しかけ、生徒や教員とのやり取りを大切にしている。「子どもたちが世界や地域のリーダーとして、誰と関わっても活躍できるように人に成長できるように、さらに質の高い教育を実現したい」と意気込む。

教育界に35年従事しており、日本とオーストラリアの小・中学校で体育・科学・英語の教師として子どもたちの成長に力を注いだ。平成3(1991)年から7年間は神奈川県内の自治体で国際交流のプ



松本秀峰中等教育学校の
学校長に就任した

ブレット・マックスウェルさん

オーストラリア・シドニー出身。同国の大学で教育学士や、学士のTESOL、言語教育の教育学修士、経営学修士を取得。松本市内で上海出身の妻と、3カ国語を学ぶ長男の育児にも力を注ぐ。56歳。

学び深める仕組み構築へ

プロジェクトを担当。その後、会社までの3年間は、神奈川県私立学校で校長を務めた。立ち上げ運営していた。昨年度 松本秀峰中等教育学校の印象

は「生徒は素直で元気だけれど、授業を受けるときは真剣。価値観がしっかりしている。教員と保護者も連携が取れている」と話す。今の子どもたちはAI(人工知能)に直面する世代と指摘し、認知能力や非認知能力、課題発見力、課題解決力を養うため、一つ一つの学習や行事にさらに工夫を凝らし、学びを深める仕組みづくりを始めている。生徒たちには「職業がなくなったり、新しくできたりする中、チャンスをもにできる、困難を乗り越えられる人になってほしい」と願いを込める。(陽)

英語力伸ばす教え方で

甲信越
ひと



松本秀峰中等教育学校の新校長

ブレット・マックスウェルさん (56)

りがある。特に日本で一般的なインプット中心の授業には否定的だ。

「日本人らしい英語で構わないが、自分のものにすべきだ。生徒がいま向き合っている教科のテーマ、例えばSDGs

だったらプラスチックで、英語で表現できるか。英語で議論できる力を身につけさせたい」

松本秀峰は2010年開校の小規模校(24年度まで学年定員80人)ながら、今春は国立大の医学部医学科・歯学部

に計7人が合格。県内有数の進学実績を誇り、保護者の期待も大きい。

校長として教育の質を高めるには、まず教職員に活気がみなぎり、チームワークを発揮できる組織にすることが大事だと信じる。「みんなが前向きな発言を心がけ、コミュニケーションを良くしていけば、学校の風土は必ず変わる」

時代は揺れ動き、人工知能(AI)の技術が進めば、いまある職業の一部が消えていくことも考えられる。

「どんな変化、困難に直面しても、それを乗り越えられ人間を育てる。そのためには知識ベ

ースの認知能力に加え、先の読めない将来に立ち向かう自信をもつことが大事。そうした非認知能力を養い、社会に求められる人材を輩出したい」

6年前から、京都、横浜の私学2校で校長を務めた。松本秀峰での任期は2年だが「2年間のつもりだったから、小学生の息子を連れて移住してきていない」。

今年度は、同校の5年以上先を見据えた中長期計画を立てる。「前任校は通勤に片道2時間かかり、常に寝不足だった。信州は自然が豊かで、家族との時間も十分取れる。趣味のサイクリングも楽しみたい」(佐藤仁彦)

父がマネジャーとして働くホテルで暮らした少年時代、宿泊客の日本人親子と仲良くなったのが日本との出会いだった。

22歳のとき、神奈川県二宮町の外国語指導助手(ALT)として来日。

教員を交換留学させる計画の作成や研修などに7年携わったことが、その

後の人生を変えた。いちど母国に戻り、大学院でTESOL(外国語としての英語教授法)を身につけたが、横浜の中高一貫校で校長を務める知人から「うちで専任教員を」と誘われ、再来

日した。その後、県内で英会話教室4校を経営。日本人の英語力をどのように伸ばし定着させるか、その教え方には人一倍こだわ

る。趣味のサイクリングも楽しみたい」(佐藤仁彦)

学校法人松商学園が松本市で運営する中高一貫校・松本秀峰中等教育学校に今春、新校長として招かれた。オーストラリアで生まれ育ち、日豪で35年以上教育に携わった経験の持ち主。私学経営の比較研究で、経営学修士を取った異色の経営者でもある。

父がマネジャーとして働くホテルで暮らした少年時代、宿泊客の日本人親子と仲良くなったのが日本との出会いだった。

学生時代はラグビー、アメフトに熱中。大学を出ると、中学高校の教員となり、保健体育と理科を